

サンビオティック農業 玉葱栽培マニュアル

1. 本圃の準備

- ・事前に殺草しておく(被覆前コンポラル粒 6kg、定植後トレファノサイド5kg、3月期ゴーゴーサン細粒6kg)。
- ・排水不良田は、額縁明渠、弾丸暗渠など早めに対策を行っておく。
- ・新規作付け及び生育不良圃場は必ず土壌pHを測定する。
- ・タマネギの根は浅根性で吸収力が弱いので、定植後根を十分に伸長させることが必要。
年次的な深耕に努める。(目標作土深 15cm)
- ・定植の1カ月程度前に、堆肥、ミネラル等の土壌改良資材を散布し、菌力アップ5Lを100倍希釈して散布し、混和する。

肥料名	施用量	N	P	K	Ca	Mg	Bo	Mn	Fe	SiO
豚糞堆肥(のこず無)	1,000kg	30	50	30	34	9				
有機石灰										
ケイカル(JA)	60kg				28.8	3				19.2
ケイ酸鉄(コメリ)	10kg				4	0.55		0.64	2.1	1
混合微量要素(コメリ)	20kg					9.2	1	1		
合計		30kg	50kg	30kg	67kg	22kg	1kg	2kg	2kg	20kg

2. 元肥の施用と畝立て

・マルチ栽培(主に早生種)の施肥

肥料名	元肥	備考	注意
有機百倍(ペレット)	100kg	全量打ち込み	リン酸過剰の場合、 鈴成を省略
鈴成(ペレット)	40kg	"	
硫酸マグ(粒)	60kg	"	

	N	P	K
元肥	9	7	3
追肥			
合計	9	7	3

※施用した堆肥のC/N>20の場合は、有機百倍を増やす必要があります。

※草勢を判断し、必要なら1月に追肥をします。(下記参照)

・露地栽培(主に晩生種)の施肥

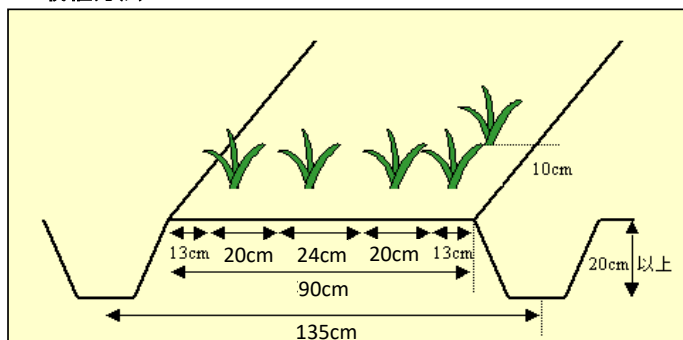
肥料名	元肥	追肥		備考
		1月中旬	3月上旬	
有機百倍(ペレ)	100kg	40kg	40kg	追肥は液肥を灌水
鈴成(ペレ)	40kg			
特濃糖力アップ		5k×2回	5k×2回	
純正木酢液			1L×2回	
硫酸マグ	60kg			

単位:kg

	N	P	K
元肥	9	7	3
追肥	9	3	2
合計	18	10	5

※施用した堆肥のC/N>20の場合は、有機百倍を増やす必要があります。

3. 栽植方法



苗半作！苗の管理は厳密に。

- ・播種は極早生9月中旬、中生以降9月下旬。
- ・乾燥、肥料切れ厳禁。

- ・露地早生種は11月20日までに定植を完了する。晩生は12月中旬まで。
- ・機械植えは、低速で植え付ける。
- ・手植えは、植え穴をすじ条又は、等間隔にあけ、苗を植えた後、鎮圧を行う。
- ・定植にあたっては、断根による植え痛みを少なくする。
- ・定植後降雨がなく土壌の過乾燥が続く場合は、午前中1回灌水する。
- ・活着促進のため、定植後、2～3回 菌力アップ200倍+木酢液1000倍を灌水する。

月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	○ - ○ - × - × -														
作型と主な作業	極 早 生・ 早 生	苗床準備	土壌消毒	播種	本田準備	マルチング	定植	(ト)ネル被覆			病害防除	収穫出荷			
	中 生	苗床準備	土壌消毒	播種	本田準備		定植		追肥①	土入れ	土入れ	追肥②	病害防除	収穫出荷	
	晩 生	苗床準備	土壌消毒	播種	本田準備		定植		追肥①	土入れ	土入れ	追肥②	病害防除	収穫出荷	吊り玉出荷

4. 定植前後の管理

- ・定植直前に貯蔵病害防除のため、ベンレート水和剤に根際部から5cm程度のところまで、苗を浸漬し植え付ける。(20倍液の3分間浸漬)
- ・活着後は雑草発生を抑えるため、土壌処理除草剤を散布する。
- ・低温、乾燥から根を保護するため、厳寒期になる前に切りワラか完熟堆肥を10a当たり2t程度散布する。
- ・露地栽培では、肥料切れと抽台発生を防ぐため、1月中旬、3月上旬に追肥を行う。
- ・3月上旬の追肥は、品質低下や貯蔵性腐敗病の増加の要因となるため、施用時期と量を厳守する。
- ・生育指数表示法(GI)の活用(正の相関)

$$GI = \text{草丈 (cm)} \times \text{生葉数 (枚)}$$
 - ・3月下旬 150以上
 - ・4月上旬 600以上
 - ・収穫時 500以上

5. 花芽分化と抽台対策

- ・一般に大苗ほど低温の影響を受けやすく、抽台の危険性も高い。
- ・暖冬などで生育の進んだ苗が、寒波を受けると抽台が多くなる。
- ・苗の大きさが適当であっても、窒素が不足すると花芽分化することがある。
- ・中晩生の露地栽培は生育前半の窒素をある程度高めることは効果が高い。

6. 病虫害防除

- ・苗からの持ち込みがないよう、苗床での防除を徹底する。
- ・本田は極力排水の良い圃場を選ぶ。
- ・葉害防除は予防重点に実施する。
- ・高温期(3月以降)は葉害を生じやすく、混用薬剤、使用倍率等には十分に注意。
- ・防除の際は、木酢液1000倍を農薬と混合する。

※特に注意する病虫害

害虫	対策
スリップス (ネギアザミウマ)	・アクロスリン乳剤 ・ジェイエース水溶剤
ヒメフタテンヨコバイ (萎黄病)	

病害	対策
苗立枯病	・オーソサイド水和剤
灰色腐敗病	・ベンレート水和剤
ボトリチス葉枯症	・スミレックス水和剤
腐敗病	・ナレート水和剤
軟腐病	・アグレプト水和剤
白色疫病	・リドミルゴールドMZ
べと病	・フェスティバルM水和剤

15. 収穫、貯蔵、出荷

- ・貯蔵用タマネギは、圃場全体80%倒伏を目安に収穫を開始する。
- ・根切り作業をし、葉茎枯れた後に収穫がするのが理想。(貯蔵性が非常に良い)